

第3節 児童会を中心として学校全体で環境保全を推進した指導事例

1 活動のねらいと環境教育

全児童で組織する児童会活動においては、学校生活の諸問題を解決する活動、学校内の自分たちの仕事を分担処理する活動などが行われる。また、全校の児童が協力して行う自主的・自発的な活動である。学校全体の児童が共通課題に向けて進んで取り組むことができるので、環境教育の推進に児童会の果たす役割は大きい。したがって、児童会活動における環境教育の意義は、学校生活を充実させるために、児童自ら生活環境を改善することにある。つまり、学校生活での環境に関する課題に気付き、自分たちでできることは何かを考え、実行に移すことができる実践力を養うことである。

本事例では、校庭にある樹木を観察し、自然に関心をもつきっかけとする。そして、この体験を生かし、樹木に関する知識を身に付けさせる。その過程で、校庭や学校の周りの植物など、身近な自然への関心を深め、環境保全に向けた行動を具体的に起こす児童を育てていきたい。

2 縦割り活動（樹木オリエンテーリング）を取り入れた環境教育の実践

- <児童会での事前準備>
- ・樹木の名前付け
 - ・オリエンテーリングの用紙準備

校内樹木オリエンテーリング I

1 目的

- ①校内の樹木に親しみ、どのような樹木があるのか、関心をもつ。
- ②縦割り班で活動し、異学年と交流をする。（教えたり教えられたり仲良く活動する。）

2 内容

縦割り班で校内の樹木を巡り、木の名前を記録する。

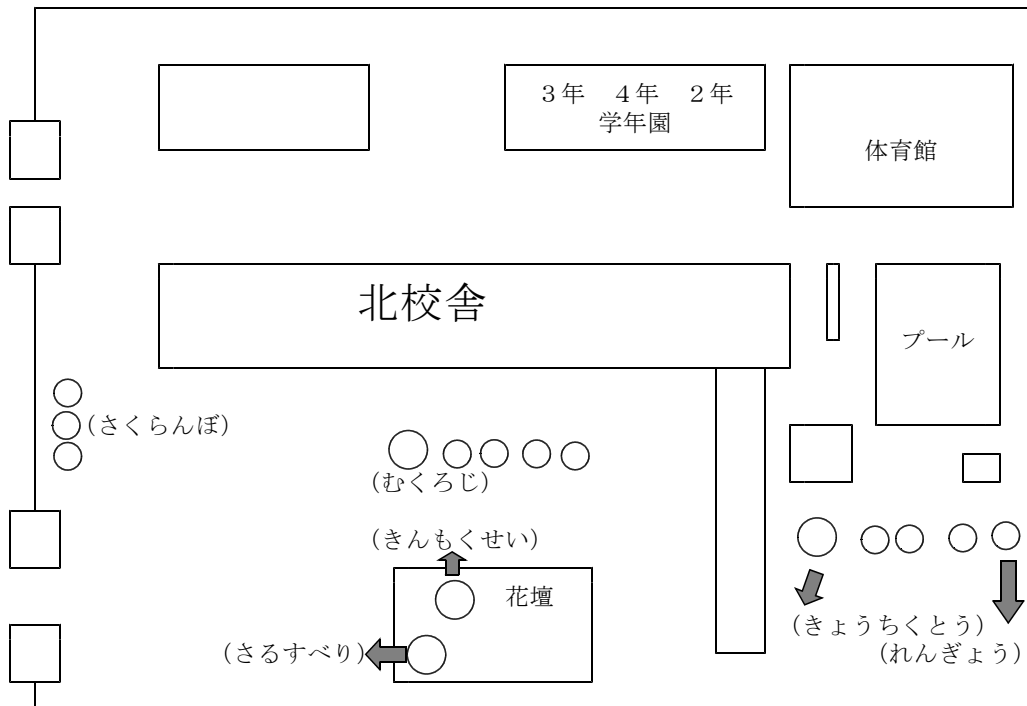
3 日程

5月21日（水）朝の活動

4 方法

8：20 全校児童を三つに分け、3色に分けたグループの隊形で整列
栽培委員会より説明

8：25 校内巡り始め。校内にある10本の木を巡り、名前を記録する。
（1年生には、6年生が記録を手伝う）



樹木オリエンテーリング II この木はどの木？

- 1 日 時 7月15日 8時20分から35分
- 2 集合場所 全校の児童を三つに分けた3色のグループで集合し、活動する。
- 3 内 容 樹木図を全員が持ち、校内の15本の木の特徴を見て、番号を記録する。

そめいよしの
1

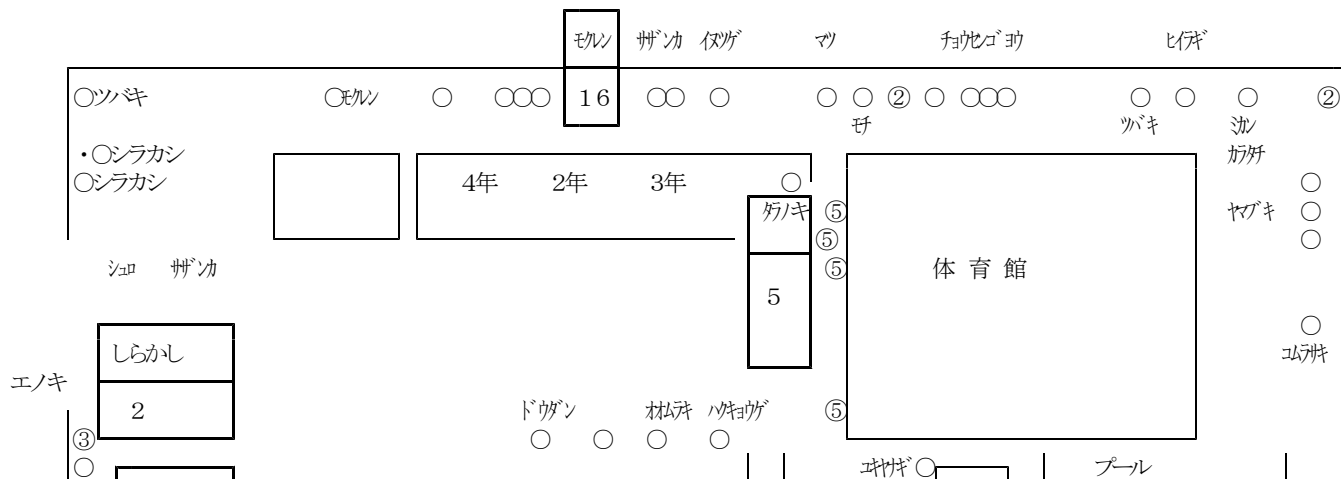
【例】そめいよしの
ごくふつうのいとざくら。
春先にいっせいにさく。

1と記入する。

- 4 その他 ①1年生には、6年生がつく。
②35分には班ごとに終わりにする。



樹木オリエンテーリング III 木のとくちょうを読んで、番号を書こう



< 1回目で樹木の場所を覚えた児童は、仲間と相談し樹木の特徴を記入していた。 >

今回の取組では、樹木のオリエンテーリングを通して、

- ・樹木は、私たちに夏の涼しさを与えてくれること（体を守ってくれること）
- ・「この木には、鳥がよく来るよ。」鳥にとっても大切な生活の場所だね。大切な木だね。

など、樹木に対する思いが言葉で表された。

児童の身近な環境への意識や関心を高め、樹木のことについての知識を得る。

そのことにより、大切な樹木をどのように守るか、どのようにしたらよいのかという課題を見付け、環境に対する課題解決の態度や実践力が身に付いてきている。

この木はどの木？

ばんごう か
番号を書こう

1	2	3	4
<p>ごくふつうの、 いとざくら。春 先こいっせいに さく。</p>	<p>おおきいものは 高さ20mにも なる。春の終わ りに、新し葉 といっしょに花 をひらく。</p>	<p>海岸は、高さ 20～30m、 花は、4月から 5月。松ぼっく りができる。</p>	<p>さくらのぬめま。 山形で、栽培さ れているものが 有名。 実を食べられる。</p>
5	6	7	8
<p>花は、白 とげがある。 若葉おおりが あって、おいし い。</p>	<p>6から7月ごろ えだ先に 青紫色の花を たくさんつける。</p>	<p>中国産の木。 10月から11 月にかけて、と ても強い甘い香 りの花をつける。</p>	<p>秋にあざやかに 色づく。 実回転しながら とんでいく。</p>



【 班ごとの樹木の観察 オリエンテーリング 】

児童は、仲間と樹木オリエンテーリングを通して、「学校に、かしわの木がある。5月の節句で使うのと同じだ。」「サクラノボがなっている。」など今まで目にとめなかった樹木について関心をもつようになった。

また、全校朝会での「校内にあるイチョウの木は何本でしょう。よく数えて、校長室に貼ってある回答用紙に答えと名前を書きましょう。」という校長の問いかけに、本数だけでなく、「イチョウは、ぎんなんがなり、茶碗蒸しに使われる。家でお母さんがよく作ってくれるよ。」など、樹木の特徴についても一生懸命調べてくる児童が増えてきた。

さらに、自分の木として観察をする児童も見られ、除草作業や落ち葉掃きも進んで実践する児童が多くなってきた。



「全校児童による除草作業」



「6年児童による自主的な落ち葉掃き」
(集めた落ち葉で腐葉土づくり)

3 委員会活動を通しての環境教育の実践

(1) アルミ缶回収

毎月2回、水曜日にアルミ缶回収を行っている。前日、ボランティア委員が、校内放送でアルミ缶回収への協力を依頼し、昇降口にアルミ缶回収箱を出して、当日の朝、児童が回収箱に入れる。業間休みに、ボランティア委員がアルミ缶の重さを量り、袋詰めする。学期に1回の割合で業者に取りに来てもらい、児童会の活動費としている。

捨ててしまえば、ごみになってしまうアルミ缶を回収し、リサイクルすることで、どれだけの消費電力が節約できるか。(再利用すると消費電力が2/7分の1ですむ) また、資源には限りがあることについても知らせ、リサイクルの実践を続けることの大切さを意識付ける。



【 アルミ缶の袋詰め 】



【 アルミ缶つぶし 】

(2) 牛乳パックの回収

給食の時間に児童が牛乳のパックを開き、バケツで水洗いして教室で乾かす。その翌日に、牛乳のパックを回収している。ボランティア委員が、回収した牛乳パックの整理整頓を行った上で、学期に1回の割合で業者に取りに来てもらい、トイレトペーパーと交換してもらう。

1クラス30人分として古紙1kgに相当し、トイレトペーパー4～5個分
牛乳パックを1500枚作るには、20～30年の立木（高さ8m、直径16cm）が必要である。
—全国牛乳パックの再利用を考える連絡会資料による—

捨ててしまえばごみになってしまう牛乳パックも、回収することのよさを知らせ、常時活動として意識付ける。



【 牛乳パックの回収 】



4 児童会活動での環境教育をより充実させるために

児童会で、環境教育を推進することは、児童一人一人に「身近な問題を考え、自ら行動する」意識をもたせるために大変有効である。中でも、異年齢で活動することによって児童の意識の変容が大いに見られる。

今まで意識しなかったものに目を向け、仲良し縦割りグループで、樹木や鳥について話したり、樹を見て食べ物との関係を考えたりすることを通して、自然の大切さについて考える力が育ってきている。

長い目で環境保全を考え、児童自ら、「今できること」を継続的に実践することの大切さを意識し、学校・家庭・地域が一体となって環境を見守っていく目と心を育てていきたい。